2011年
No.1399
6月25日
(平成23年)
月 3 回
5・15・25日発行

発行所
株式会社エアゾール産業新聞社
東京都千代田区神田淡路町1－1
神田クレストビル
電話東京 (3253) 1941(代)
ファクス番号東京(3253)1944
編集発行人 小林陽明
購読料 年間23,100円(前納)
振替口座00170－5－100345

エアゾール&受託製造産業新聞

化粧品 医薬品 医薬部外品 食品
家庭用品 自動車用品 工業用品

昭和42年6月8日第3種郵便物認可

盛大に創立40周年宴

殺虫剤工業会 150名が新たな発展誓う

日本家庭用殺虫剤工業会(上山直英会長＝大日本除虫菊社長)は6月16日(木)午後4時30分から京都市東山区のウェスティン都ホテル京都「瑞穂の間」で会員各社の役員・幹部社員・OBのほか関係官庁・団体や業界専門紙の代表など約150名を集めて「創立40周年記念式典」を盛大に開いた。

当日は大屋洋子・電通総研主任研究員による記念講演のあと、午後5時30分過ぎから記念パーティを開いた。冒頭、上山会長から別項の挨拶があったあと来賓の山本繁富・大阪府健康福祉部薬務課長が祝辞を述べ、福林憲二郎・住友化学専務の音頭で一同が乾杯。参列者が同工業会の新たな発展を誓いながら歓談の一刻を過ごし、大塚達也・日本家庭用殺虫剤工業会副会長(アース製薬社長)が中締めしたあと、午後7時30分過ぎ散会した。

創立40周年記念式典で挨拶する上山・日殺工会長

上山会長のあいさつ 当工業会は「日本除虫菊研究所」と「日本除虫菊工業会」が昭和46年に合併して「日本殺虫剤工業会」が発足、10年前の30周年時に現名称ゾール缶を中心とした美術缶の営業畑が長く、平成13年高槻工場長、15年メタル容器販売部長を経て、18年に東洋エアゾール工業に専務として出向。TFI設立(19年)と同時に同社社長を兼務し、タイ工場立ち上げの陣頭指揮をとった。新社長に就任した高柳氏は、「村上前社長が策定された中期計画を継続推進し、収益力・生産効率・高品質力で強い会社にしたい」と抱負を語った。

に変更した。除虫菊研究所は戦前、除虫菊の検定・成分研究で品質維持のため設立された。除虫菊工業会は昭和32年、除虫菊の栽培普及と家庭用殺虫剤の販売を行なっていた18社が設立したものである。現工業会のメンバーは、世界の最先端を走っており、蚊取線香をはじめかとりマット、液体かとりなどの製品は、すべて日本で開発され世界に広まった。エアゾール製品を日本で最初に開発したのも殺虫剤業界である。明治以降、世界を手本にし成長した産業はたくさんあるが、殺虫剤産業は日本で独自の発展を遂げ、製品が世界へ出ていった数少ない産業である。

当業界の規模は1千億円ほどで、それほど大きくなく、人口減・環境整備による虫の減少で、大丈夫かという話をよく聞くが大丈夫である。日本人の虫に対する感受性が変わり、また、冬でも暖かく過ごせるようになり、地下で蚊が発生するようになった。人間にとっての快適は虫にとっても快適で、業界にとっても良い環境である。今後も殺虫剤を安全に正しく使って頂く知識普及、環境に配慮した製品創造を中心に活動を続けていく所存です。